

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年十月度 入選句（投稿総数二千四句・一般投句数七百四十八句）

選者 長野 美代子

特選

人住 まぬ 砧の石の丸さかな 京都府宇治市 ジャンヌ

最近山里を尋ねた折目につくのが人の住んでいない家が多くなった。
玄関も板が打ちつけられており、手遊びの小さな畑に出来た芋なども猪に食い荒らされている。そんな軒下に置かれてある砧。長年使われてきたので丸くなっているのだらう。永い間の山暮しを浮かべ、なつかしさが伝わってくる感情のするどい句だと思ふ。

神杉 にきらりと 賽や 秋の風 大垣市 岡田 あや子

古い神社か寺であろう大きな老杉に囲まれ沈む様に建つ社は誠にしづかで荘厳である。幾百年を経し神杉も神の化身のようだ。幹の少しの割れ目に賽を差して挿んだのであると思ふ。風までが清々しい。

台風 一過 空洗われて 山近し 大垣市 三摩 法恵

今年は次から次と台風が来、とても荒れた秋である。此のあたりはそんなに被害もなく幸いである。あの荒れ狂った風雨も去りほつとした。翌日はからつとし、洗い流されたような青空である。心なしか山も近く見える。とても素晴らしい描写に心をうたれた佳句です。

秀逸

曼珠沙華濃尾平野に飛び火せり 神奈川県川崎市 福地 聡

夕立や子等の声までずぶ濡れに 大垣市 永井 田鶴子

小鳥来る森に手作りパンの店 大垣市 棚橋 みさを

蔵元の梁黒ぐろと新走り 大垣市 森川 きよ子

香煙を丸く掬はれ秋遍路 大垣市 中山 あや子

真つ青な空閉ぢ込めて芋の露 不破郡垂井町 北村 廣美

天を突く孤高の頂冬の槍 大垣市 杉崎 寿美

天高し覗き込みたる水えぐぼ 大垣市 新町 恵子

落鮎の脂香ばし茶碗酒 岐阜市 石崎 宗敏

腰屈め母の袴りや糸すすすき 大垣市 三宅 ヒサエ

入選

いつからか木犀香る風の庭
勝手場に皿積み上げて祭果つ
縁側の笹に風受く八頭
観月や影を映して巫女の舞
秋夕焼あしたの鎌を研ぎ直し
里山の池に魚はね秋涼し
新藁と日向の匂ひ里の日々
五十回忌つるりとむける衣被
川風のほどよき座敷走り蕎麦
升で汲む木の香ふくよか新走り

大垣市 高田 雅章
大垣市 末守 節子
不破郡垂井町 富田 天游
大垣市 久保田 悟義
安八郡神戸町 高橋 泰
愛知県名古屋市 岩田 勇
広島県福山市 熊丸 幸橋
愛知県岡崎市 鈴木 正紘
安八郡神戸町 澤崎 和子
大垣市 伊藤 有紀

入選

ありなしの風を捉ふる秋桜
朝の窓風に吹かれて小鳥来る
揚舟や月光の差す輪中かな
骨董市罇の小皿に秋をのせ
秋の寺 百の階 膝笑ふ
虫の音に息をころして草の径
高く飛ぶこと多くなり秋つばめ
心地よく吹かれて風の千草かな
物言はぬ句碑は語り部時雨来る
金風のぬける銃眼まる四角

愛知県尾張旭市 古賀 勇理央
大垣市 川瀬 スマ子
大垣市 秋山 くに子
大垣市 臼井 秀子
大垣市 田中 雅子
不破郡垂井町 服部 智恵
安八郡神戸町 後藤 和朗
養老郡養老町 田中 秀子
大垣市 矢橋 郁子
愛知県名古屋市 堀内 恵美子

選者吟

つつかひ棒立て外厠冬近し

美代子